

## 今年度のいじめアンケートの結果と対応について

平成31年度・令和元年度「いじめに関するアンケート」をいじめの早期発見のために生徒の人間関係等の実態把握に努めることを目的として高等部の生徒48名を対象に実施しました。

実施については、年に3回「いじめに関するアンケート」に基づき、学級担任が生徒ひとりひとりに面接を行い、「自分のこと」、「周りの人のこと」について実施しました。

実施の結果、いじめについて「ある」と答えた件数は3件あり、対象の生徒に聞き取りを行い、その内容をもとにいじめ対策委員会で検討し、「いじめ」として取り上げ指導をしました。

具体的には、「～（嫌なことを）と言われた。」、「口調がきつかった」などの「ことばによるやりとりのトラブル」と複数回「〇〇ちょうだい」など催促されるといった「物品の要求」といった内容が挙げられました。

○「ことばによるやりとりのトラブル」に関しては、一人ひとり聞き取りをすると、「故意に相手を傷つけようとしてそういった言葉を発していたわけではない」、ということでした。指導として、「相手の気持ちになって…」「自分だったら、どう思う？」などの働きかけをするなどの対応をする中で自分を振り返ることができ、トラブルが解消へとつながることができました。

○「物品の要求」に関しては、「単に欲しかったから…」、「相手がくれたから…」という理由で相手の嫌がる気持ちが理解できずに繰り返してしまったということでした。指導としては、3か月間週1回、いろいろな場면을挙げながら相手の気持ちについて考えることについて、個別に学習を継続しました。結果的に、様々な場面での相手の気持ちについて、自分がされた時のこととして考えることができるようになるなど、相手のことを思っの発言や行動がみられるようになってきました。

このように、「いじめに関するアンケート」を実施したことで、子どもたちの様々な状況を知る良い機会となっております。今後もいじめに関するアンケートや個別面談等を継続的に実施していきながら、子どもたちの悩みや不安などを早期に発見・解決したり、問題に発展しそうな行動を未然に防止したり、将来に向けての支援をしてまいります。

